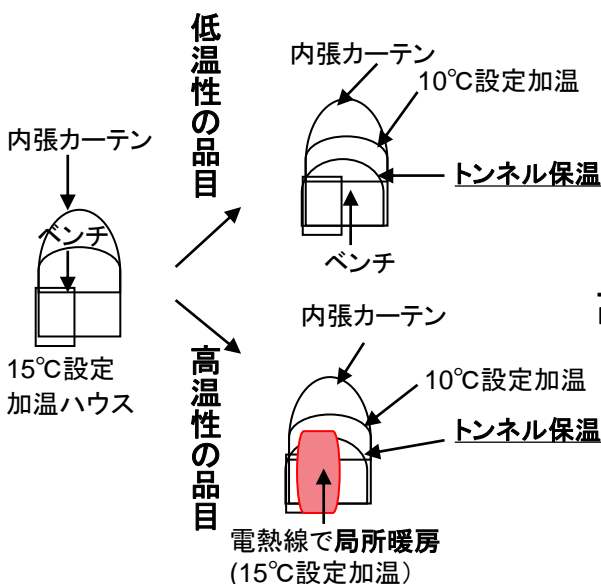


GW需要を狙った花壇苗の暖房コスト削減策 (農林センター)

春用花壇苗8品目について、4月下旬出荷を目標とした播種日・管理温度を明らかにしました。低温性の品目は10℃で、高温性の品目は更に局所暖房を併用すると、暖房コストをそれぞれ約70%、10%削減できます。

低温性の品目

暖房コスト削減策



品目	播種日	開花日※1		暖房コスト削減率(%)※2
		15℃加温	10℃加温	
キンギョソウ	1/16	4/13	4/17	67.3
サルビア	1/19	4/13	4/17	72.5
ペチュニア	2/7	4/13	4/23	70.8
マリゴールド	3/1	4/16	4/17	68.4

※1 8割の株が開花した日、各加温設定・暖房コスト計算は鉢上げ日以降
 ※2 $1 - (10^\circ\text{C加温暖房費} / 15^\circ\text{C加温暖房費})$
 参考：各月の露地の最低気温の平均(農林センター測定値)
 2月 -1.6℃、3月 1.6℃、4月 6.6℃

高温性の品目

品目	播種日	開花日※1		暖房コスト削減率(%)※2
		15℃加温	10℃加温+局所暖房※3	
トレニア	1/5	4/23	4/24	13.3
ニチニチソウ	1/5	4/26	4/26	13.7
ペゴニア	1/10	4/27	4/27	14.0
ジニア	1/30	4/11	4/16	7.6

※1 低温性品目の下注と同じ
 ※2 $1 - (10^\circ\text{C加温} + \text{局所暖房費}) / 15^\circ\text{C加温暖房費}$
 ※3 局所暖房：ベンチ下に電熱線を設置し15℃設定した

- 低温性の品目は加温設定温度が15℃に比べ10℃でも開花日は1～10日しか遅れず、暖房コストは67～70%削減
- 高温性の品目は、10℃加温と局所暖房を併用することで15℃加温に比べ開花遅れは0～5日にとどまり、暖房コストは7～14%削減

- セル育苗時は15℃加温で共通の管理、鉢上げ後は品目に応じた温度管理を行います。
- 4月下旬出荷にするためには、品目により播種時期が変わります。